

大河ドラマで注目！ 難攻不落の国吉城



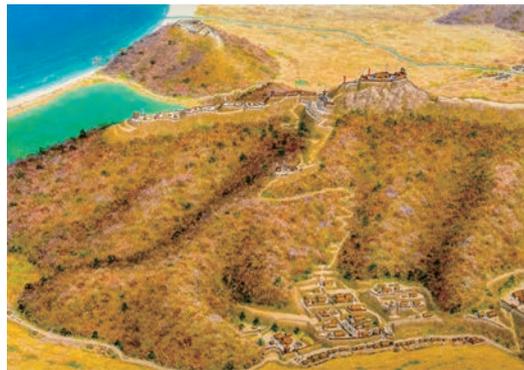
若狭国吉城歴史資料館
館長 大野 康弘さん

織田信長ら三英傑が 軍議を開いた城

かつて美浜町佐柿に存在した国吉城。織田信長が越前攻めの際に滞在し、木下藤吉郎（豊臣秀吉）や徳川家康らとともに軍議を開いた城で、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」で紹介されたのも記憶に新しいところです。

国吉城は、弘治2年（1556）に若狭守護大名 武田家重臣の栗屋勝久（あわやかつひさ）によって築城。武田氏の当主の座をめぐる争いを発端として、後に10年余にわたり越前朝倉氏の侵攻を受けましたが、籠城戦で若狭と越前との国境を守り抜いた「難攻不落の城」としても知られています。

「国吉城は、丹後街道の要所として重要な位置づけにあった山城です。山頂から敵の動向を見渡せる守りに有利



歴史考証のもと描かれた戦国時代の国吉城。丹後街道を見下ろす守りに有利な地形であることがわかります。
イラスト/香川元太郎氏 監修/中井均氏
協力/若狭国吉城歴史資料館

な地形を生かし、朝倉氏が差し向けた大軍勢をわずか800人ほどの地侍や民衆たちで撃退したと伝えられています。そう話すのは、若狭国吉城歴史資料館の大野康弘館長。資料館が所蔵する軍記『国吉籠城記』には、当時の戦いの様子が記されています。

金ヶ崎の退き口で 信長の命運を分けた

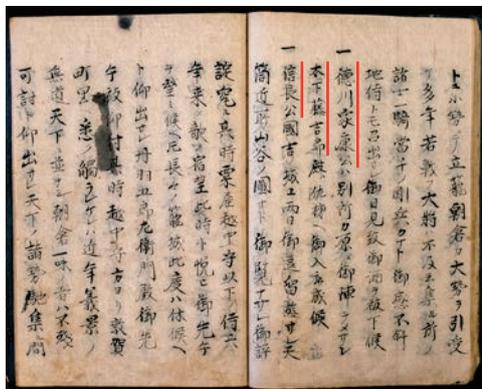
『国吉籠城記』には、信長入城時の記述も見られます。信長は朝倉勢を相手に城を守った地侍を称賛。さらに山頂からの眺めを、「言語道断の境地」と褒め称え、城下町づくりを勧めたと

記されています。

元亀元年（1570）4月、信長の軍勢は国吉城から敦賀に攻め入り、一乗谷を目指そうとした矢先に、まさかの浅井長政の裏切り。織田軍は撤退を余儀なくされます。これが、世に言う「金ヶ崎の退き口」で、信長は国吉城を経由して帰京。態勢を立て直し、同年6月に近江国姉川で浅井・朝倉軍を撃ち破ります。

「国吉城が健在だったから、織田軍は撤退することができました。もし、永祿6年（1563）からの朝倉氏の侵攻で城が落ちていたら、歴史は変わっていたでしょうね」（大野館長）。

『国吉籠城記』に明智光秀の記述はありません。しかし、「光秀は金ヶ崎の退き口で秀吉とともにしんがりを務めており、他の史料からも信長らとともに国吉城に逗留した可能性は高いですね。信長を討った反逆者のため、記



本館蔵の『国吉籠城記』の写本。三英傑の名前が確認できます。

述を外されたと考えるのが妥当です」という大野館長の解説からも歴史の面白さを感じられます。

国吉城下町が佐柿集落の起源に

本能寺の変の後、国吉城主となったのが木村常陸介定光です。国吉城は土づくりの山城でしたが、定光の統治期に石垣が整備されたと考えられています。発掘調査ではそのことを裏付ける古い石垣が発見されています。また、定光は丹後街道を中心に城下町を整備。天正14年（1586）春に完成した城下町が、現在の佐柿集落の起源となりました。

若狭国吉城歴史資料館からつづら折りの山道を登ること約30分、国吉城の本丸跡が残る山頂からは、信長も讃えた雄大な若狭の絶景を眺められます。

●この記事に関するお問い合わせ
若狭国吉城歴史資料館

TEL 0770(32)0050



若狭国吉城資料館の来場者は、大河ドラマ「麒麟がくる」の放送があった11月は2000人超となり、前年から倍増。大いに注目を集めました。